

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

生駒市立生駒小学校

教諭 京藤 真直

教諭 奥原 夕貴

講師 辻 琳太郎

教諭 永島 健太

教諭 尾下 智美

1. 単元名 「みんなにとって住みやすい街 いこま」

2. 単元の目標

- ・車いすや目の見えない人の大変さを理解し、地域の人に伝わるように校区マップにまとめることができる。
(知識及び技能)
- ・自分の体験や写真の資料、講話を聴き、課題を見出し、生駒小学校区に住むみんなにとって住みやすい街になるための方策を考えたり、考えたことについて校区マップを通して伝えたりすることができる。
(思考力・判断・表現力等)
- ・生駒小学校区に住むみんなが住みやすい街とはどんな街かという目的意識を持ち、意欲的に体験したり、校区マップにまとめ、地域の人に伝えようとしたりすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、さまざまな体験活動を通し、車いすで生活している人や、目の見えない人の生活を自分事として捉えさせる学習である。頭では理解していても、実際に困っている様子や、ちょっとした段差や砂地のような「バリア」に気づいていない児童も多いように思われる。車いすの体験を通して、自分たちの身の回りにたくさんの「バリア」がある。障がいがなかったときには「不便」「使いにくい」と思っていなかったことが、日常生活を送る中で「バリア」になっていることも多いことに気づかせたい。また、お互いに困っているときには助け合えるように促していきたい。

(2) 児童観

本校の児童は、とても元気があり、活発に活動しようとする児童が多い。また、困っている友達を見つけるとすぐに声をかけに行く優しさも持ち合わせている。一方、声をかけたり、助けてあげたりしようとする意欲はあるものの、実際にはどのように助けたら良いのか、どのように声をかければいいのかかわからず声をかけられなかったということもしばしばある。そこで、本学習を通して、どのようなことに困っているのか、どんなことをしてほしいのかを理解できれば、児童の良さがもっと引き立つと考える。

(3) 指導観

本学習でのキーワードである「みんなにとって住みやすい街 いこま」を自分事化していくために3つの工夫を行う。1つ目の工夫として、体験活動を行う。この体験活動では、車いすに乗ったり、アイマスクをつけたりして、学校内を動く。車いすは体育館で行うことで、マットや坂道を利用しながら「バリア」を作る。アイマスク体験では、当事者とサポート担当を決め、2人1組で取り組むため、障がいの体験と障がいのある人とのかかわりの体験をすることができると考える。2つ目は、児童たちが「みんなにとって住みやすい街 いこま」について考えやすいように、実際に、街に出ていくということだ。ここで自分たちが普段何気なく登校している通学路であっても様々な「バリア」があり、どんなところに困難を感じるかということを実際に目にすることが大切であると考え。また、そこで見たことを地図に起こすことで、困っている人がいないか、助けが必要であるかを意識するきっかけになると考える。3つ目は、児童たちの社会参画を促していくために、地域の方に協力を仰ぎ、児童たちが作り上げたマップを通し、自分たちの考えを発信させたい。普段では学習を通して、学んだことや感じたこと、考えたことをまとめたり、共有したりする機会はあるが、クラス内での活動にとどまる場合が多いため、社会参画をしたり社会に発信することで、児童たちのそれぞれの学びを本物にすることが出来る则认为。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点

多様性…自分たちが住んでいるまちには、赤ちゃんからお年寄りまでたくさんの人が住んでいること。自分たちが何気なく過ごしている空間の中にも、誰かにとってのさまざまな「バリア」があること。

公平性…私たちがだけ過ごしやすい空間が、誰にとっても過ごしやすい空間ではないこと。

誰かにとって過ごしにくい空間ではなく、みんなが過ごしやすい空間であること。

連携性…障がいや特性のある人を含め、生駒小学校校区がよりよくなるためには、一部の人だけではなく自分自身を含め、地域全体で一人ひとりが考えて行動することが大切であること。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】

自分たちが何気なく過ごしているところにも、誰かにとっての「バリア」があることに気づく。

【進んで参加する態度】

障がい体験の中で、「バリアとは何か」について考え、解決するために行動する。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

【世代内の公正】

自分たちが過ごしやすいだけでなく、全ての人が過ごしやすい空間について考える。

【人権・文化を尊重する】

自分たちの周りには、誰かにとっての「バリア」があることに気づき、障害の有無に関わらず、みんなが相手のことを思い合い、より良い社会を作ろうと行動する。「みんなが過ごしやすい空間」について考え、工夫する中で、相手の悩みや思いに寄り添い、相手を尊重して行動する。

<p>6 校区マップを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の歩き方・写真を撮るときに周囲を確認することを指導する。 ・地域の方や各担任の支持をしっかり聞くように指導する。 ・色分けや写真を上手に使い、地図の上で見やすくまとめられるように指導する。 	<p>ア①② (知・技) イ② (思判表) ウ② (主体的)</p>
<p>7 見守り隊の人たちに協力を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちも声をかけていくので、協力してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの内容の共通点、相違点に注意しながら発表を聞くように声かけをする。 	<p>ウ③ (主体的)</p>



6-1 本時案 (1/16)

辻 琳太郎

○本時のめあて

「生駒市にはどんな人が住んでいるか写真から考えよう」

○本時の展開

	学習活動・予想される児童の反応	学習への支援	評価
導入	<p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 生駒市にはどんな人が住んでいるか写真から考えよう。 </div> <p>○生駒駅の写真を見る。</p>	<p>・生駒駅の様々な人への配慮に気づかせる。</p>	
展開	<p>○生駒駅の写真を見て気づいたことを出しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅員がおらず、ボタンがある。 ・ 耳マークがある。 ・ 点字ブロックがある。 ・ 広い改札 <p>○それぞれはどのような人たちのためにあるのか考えを出し、生駒市には様々な人が住んでいることに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボタン→外国人、困った人 ・ 耳マーク→耳の聞こえない人 ・ 点字ブロック→目が見えない人 ・ 広い改札→車いすの人 	<p>・気づきが少ない時は画面をアップしてヒントを出す。</p> <p>・ 近くの児童と意見の交流を行う。</p>	イ② (思判表)
まとめ	<p>○次時からの活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす体験、アイマスク体験 	<p>・ 車いす体験やアイマスク体験などを行う上で、遊びで行うわけではなく大変さを知ったり、住んでいる生駒市について考えたりできるように伝える。</p>	

6-2 本時案 (5/16)

尾下 智美

○本時のめあて

「見えない人、見えにくい人がどのように生活しているかを知ったり、見えなくても介助があればできる、わかるという体験をしたりすることで、視覚障害についての理解を深める。」

○本時の展開

	学習活動・予想される児童の反応	学習への支援	評価
導入	<p>○目の不自由な人はどんな生活をしているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見えなくて困っている。 ・歩くときに白い杖をついている。 	<p>○「目の不自由な人は何もできない、恐怖の中で生きている」という植え付けにならないように配慮する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 目の不自由な人の生活を体験しよう。 </div>			
展開	<p>○アイマスクをつける。(2人組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真っ暗で何も見えない。 ・どこに誰がいるのかわからない。 <p>○校舎内をアイマスクをつけて歩く。(2人組)</p>	<p>○アイマスクをする人とガイド(外出の付き添いを行うこと)する人がペアになるようにする。</p> <p>○ガイドするときに気をつけることを指導しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドはアイマスクの人の斜め半歩前を歩く。 ・ガイドの肘を軽く握ってもらう。 ・狭い所や混雑している所ではガイドが前、アイマスクの人が後ろに立ち一列になって進む。 ・出発、止まる、曲がる、階段をのぼるときなど、必ず次に何をするのか言葉で伝える。 ・アイマスクの人の安全に気をつける。 <p>○目の不自由な人の立場に立って体験し、どんな時に不安を感じるか、どのような案内をしてもらえれば安心するかなどを考えながら体験させる。</p>	ウ①(主体的)
まとめ	<p>○体験を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩くスピードに気がつけた。 ・階段のところで声をかけた。(階段があるよ、あと何段だよ。) ・次にどんなところを歩くのか言ってくれて安心した。 ・もっとゆっくり歩いてほしかった。 	<p>○目が不自由な人に対してどのような接し方をすればよいか考えさせる。</p> <p>○安全に歩くためにはバリアフリーも大切であるということを伝える。</p>	

6-3 本時案 (11/16)

奥原 夕貴

○本時のめあて

「福祉体験や講話を振り返り、自分たちができていることを考えよう」

○本時の展開

	学習活動・予想される児童の反応	学習への支援	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉体験や講話を通して、思ったことや気づいたことを共有する。 ・坂や段差があると大変だった。 ・目の見えない人のために点字ブロックがあると知った。 ・自分の家のまわりはどうだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの活動で書いた感想を発表させる。 ・友だちの意見を聞きながら、自分と似ているところや違うところに気づかせる。 	
福祉体験や講話を振り返り、自分たちができていることを考えよう			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車いすの人や目の見えない人が困りやすい場所はどこかを考える。 ・坂道だと思う。 ・車が多いところも危ない。 ・信号がない道があったよ。 ・階段も大変じゃないかな。 ○ 自分たちの登下校の道について知っていることを出し合う。 ・家の近くには急な坂があるので、車いすだと登りにくい。 ・踏切や横断歩道がたくさんある。 ・歩道がせまい道がある。 ・実際に見に行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験やアイマスク体験を振り返り、自分が不安に思ったところや通りにくかったところを考えさせる。 ・住んでいる地域ごとにグループ分けして、意見を交流させる。 ・グループごとに発表し、全体でも交流させる。 ・他のグループの発表を聞いて、自分たちの住む地域だけでなく校区全体に関心をもたせる。 	イ②（思判表）
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○次時からの活動を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに校区を調査し校区マップにまとめることを確認させる。 ・校区マップを作ることで、困っている人のお手伝いをしようとする意欲を持たせる。 	

6-4 本時案 (12/16 13/16)

永島 健太

○本時のめあて

「校区を調査してマップにまとめよう」

○本時の展開

	学習活動・予想される児童の反応	学習への支援	評価
導入	<p>○学外に出て調査をするにあたり、注意点の確認と、学習の視点の確認をする。</p> <p>○一緒に回ってくださる地域の方に挨拶をする。</p>	<p>○道路の歩き方・写真を撮るときに周りを確認することを指導する。</p> <p>○地域の方や各担任の支持をしっかりと聞くように指導する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">校区に出て、調査をしよう。</div>			
展開	<p>○それぞれの登下校コースに分かれ調査をする。(ピンクは学校周辺)</p> <p>調査のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂道。 ・車が多いところ ・信号がない道 ・階段 ・踏切 ・道の幅 <p>○マップに調査したことを書き込んでいこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色を分けてまとめた方が分かりやすいよね。 ・生駒って坂が多いよね。 ・実際に見るとちっちゃな段差もたくさんあるよね。 	<p>○それぞれの登下校のコースに分かれる。</p> <p>担任の振り分け</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤→永島 緑→奥原 黄→辻 ピンク→京藤 <p>いこま学級担任はそれぞれの担当する児童に付き添う。</p> <p>○色分けや写真を上手に使い、地図の上で見やすくまとめられるように指導する。</p>	<p>ア①② (知・技)</p> <p>イ②(思判表) ウ②(主体的)</p>
まとめ	<p>○作ったマップの活用を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこかに掲示しよう。 ・地域の人たちに協力してもらおう。 ・学校のみんなに伝えよう。 	<p>○自分たちにできることを考えさせる。</p>	

6-5 本時案 (16/16)

京藤真直

○本時のめあて

「みんなのアイデアを地域のアイデアに変え、協力して生活できる街にしよう。」

○本時の展開

	学習活動・予想される児童の反応	学習への支援	評価
導入	<p>○前時までに学習したことをふり返る。</p> <p>○地域の方にあいさつをし、今回の趣旨を説明する。</p>	<p>・単元構想図などを用いて、これまでの学習の流れを想起させ、本時の活動につなげる。</p>	
	<p>みんなのアイデアを地域のアイデアに変え、協力して生活できる街にしよう。</p>		
展開	<p>○地域の方々へのお願いを伝える。</p> <p>○住んでいる地域ごとに分かれたグループの発表を聞き合う。</p>	<p>・住んでいる地域ごとに発表をさせる。</p> <p>・各グループの内容の共通点、相違点に注意しながら発表を聞くように声かけをする。</p>	ウ③(主体的)
まとめ	<p>○学習をふり返り、まとめを行う。</p>	<p>・発表をふり返り、新しく知ったこと、改めて考えたことを整理させる。</p> <p>・単元での学習をふり返り、地域で協力して助け合いながら生活しようという意欲をもたせる。</p>	